

**WEEKLY SIGNAL**

2019年10月11日(金) 1495号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	10/14(月)	10/15(火)	10/16(水)	10/17(木)	10/18(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券		+ 500	トシ	△1,000	△1,000
財政他		+ 81,400	+ 1,000	+ 1,000	△11,000
資金需給		+ 81,900	+ 1,000	トシ	△12,000
主要要因		国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(2年・個人向け) 源泉税揚げ、年金定時払い			国債発行(5年)
オペ期日					被災地支援 △100
オペスタート	体育の日				
(日本)		日銀黒田総裁が支店長会議で挨拶 地域経済報告 営業毎旬報告(10月10日現在) 鉱工業生産(8月)			全国CPI(9月)
(海外)	米 コロンプスデーのため休場 欧 EU外相会合 欧 ユーロ圏鉱工業生産(8月)	米 セントリス連銀総裁の講演 米 アトランタ連銀総裁の講演 米 サンフランシスコ連銀の講演 米 ニューヨーク連銀製造業景況指数	米 シカゴ連銀総裁の講演 米 ベージュブック 米 小売売上高(9月) 米 企業在庫(8月) 欧 ユーロ圏CPI(9月)	米 シカゴ連銀総裁の講演 米 ニューヨーク連銀総裁の講演 米 住宅着工件数(9月) 米 新規失業保険申請件数 (12日終了週) 米 鉱工業生産(9月) 欧 EU首脳会議	米 景気先行指標総合指数(9月)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金は週初、400兆5,200億円から始まり、8日の国債買入を主因に401兆円台まで上昇したものの、その後は、財政等要因により減少基調となり週末となる11日には399兆2,600億円となった。  
無担保コールON物の加重平均金利は先週末の堅調な地合いを引き継ぎ△0.012%から始まった。週を通してビッドサイドの調達ニーズは強く、週末となる11日には同金利は△0.01%となり2016年4月15日以来、3年6か月ぶりの水準となった。  
ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.02%~△0.01%台での取引がみられた。  
来週は国内では、10月の地域経済報告(15日)、9月の全国消費者物価指数(18日)、海外では、IMFの世界経済見通し(15日)、EU首脳会議(17-18日)などが予定されている。

**<C P>**

今週の入札発行総額は約7,400億円で、週間償還額(約3,600億円)を上回った。卸売業や建設業態等の大型発行と、5・10日発行の新規案件が加わり、活況なマーケットとなった。発行残高は先週末の18兆9,563億円から、10日時点では約19兆4,770億円と増加した。発行レートは、先週と変わらずほぼ0%近辺での出会い。11日に、CP等買入れオペが2,500億円程度オフアールされ、結果は按分比率△0.001%・平均落札レート0.004%と、前回(按分レート△0.005%・平均落札レート△0.001%)比で上昇した。  
来週の償還総額(10/15~10/18)は2,100億円程度となっている。20日スタート絡みの発行が見込まれることから、今週に引き続き活況なマーケットを予想する。発行レートは、投資家ニーズが強く0%近辺での出会いと思われる。

**<TDB>**

9日の6M862回債入札結果は最高落札利回り△0.2708%(前回債△0.2643%)、平均落札利回り△0.2967%(同△0.2883%)となった。また11日の3M863回債(来年1/20償還)の入札結果は最高落札利回り△0.2801%(前回債△0.3333%)、平均落札利回り△0.3049%(同△0.3657%)となった。入札後同債は△0.290%で取引された。そのほかのセカンダリーでは、年内償還の3M物が△0.165%、年末越え3M物が△0.350%~△0.390%のレンジで取引された。6M物は△0.290%~△0.310%で、1Y物が△0.293%~△0.296%で出会いが見られた。  
来週は17日に1Y、18日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

足許GC取引は、週を通して概ね△0.065%~△0.045%で推移。積み最終日となる15日受渡では、前場は△0.08%前後での出会い。短国3Mの発行要因等もあり、後場には一時△0.04%台まで上昇する場面も見られたが、引けにかけて再度レートは低下した。  
SC取引は5年140回債のbidが多く見られ、週初△0.06%台、週後半には△0.1%台前半の出会いも見られた。  
その他2年402~405回債、5年136~139回債、10年337~356回債、20年164・166~169回債、30年59・62・63回債、40年9・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。